

刊夕日五十二月六

常警毎日新聞

定価 一部全五銭 一ヶ月全五拾銭 郵費五銭
 廣告料 五銭 十銭 一ヶ月全五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常警毎日新聞社
 印刷所 常警毎日新聞社

『幼學綱要』に

ついで

蘆谷 重松

但し以上の如きは、元田先生の生涯の表面を略述したるに過ぎない。更に深く元田先生その人の、明治の日本に於ける重大なる位置を知らんと欲せば、これを徳富蘇峰先生について聞くのが最もよい。先生は、その『元田先生追記』序中に記して曰く。

『或時公(伊藤博文)予に告げて曰く、往歳屢々至尊に咫尺して献替する所あり、而して其の聖裁の跡に就いて察するに、至尊の背後に必らず至高顧問あるを推察し、百万物色果して、元田先生乃ち其の人なるを知り得たり。爾來先生と互ひに赤心を披瀝し、相提携して聖明を裨補せんことを昂め、つひに終生相渝らなかつた云々。』

又曰く
 『副島種臣伯が、元田先生を以て明治第一の功臣と稱したるは、單に聖徳啓沃の上からのみではなく大政運用の嘉謀良猷に參畫したる上からも、亦た斯くいふべきものであら

うと信せらるる云々。』

又曰く
 『先生は生れながらにして殆んど理想的宮臣の資格を備へて居る。其の風采は堂々の裡に和粹を含み其の舉動は安詳にして恭敬を寓す。色温にして氣清く、貌敦くして辭華に動容閑旋一として規矩に當らざるはなく、然かも其れが、渾厚雍容、自然に出で、少しも人をして壓迫やら窮屈を感じしむるいと無かつた。若し瀟洒磊落に於て缺くる所

ありとするも眞愛篤誠は之を補うて餘りある。若し豪邁有爲に於て足らざる所ありとするも、忠懇寛和は之を充たして多きを剩した。加ふるに心地心明、情理兼ね備はり、何人も一見信頼すること禁する能はざらしめたのである。况んや又三十年來、専心一意、君を堯舜に致すの學問を爲し來つたものなれば、適さい

★000000000000
 ○明日の献立
 ◎0000000000★

【朝】紅茶 ドーナツ

【晝】ひじき 大豆

【晚】小田むし

お浸し 三つ葉

ありとするも眞愛篤誠は之を補うて餘りある。若し豪邁有爲に於て足らざる所ありとするも、忠懇寛和は之を充たして多きを剩した。加ふるに心地心明、情理兼ね備はり、何人も一見信頼すること禁する能はざらしめたのである。况んや又三十年來、専心一意、君を堯舜に致すの學問を爲し來つたものなれば、適さい



若者 霧島 綾子

愛でられし若者！
 御身の心は初夏の
 太陽の如くに燃え
 月の如くに澄み
 深山の流れの如くに淨ら
 か
 蒼穹に住む黒水晶の瞳は
 眞理の光輝き
 高慢に隆起せる鼻陵の形
 よ、
 唇は紅き木の實の如く
 健やけき兩頬は青きリン
 ゴのつや／＼しさを
 默せる時のかんばせはリ
 ンゴとしておかし難く
 笑めば緑風のすがしさを
 汚れなき、若者御身よ

同胞よ、断じて病氣するな断じて世界一となれ
 勇氣、断行、進取は健康より来る

此夏は断じて病氣するな
 ホシチヤコール錠
 ミホシ胃腸薬に
 依つて、
 日本を世界一の製
 薬國たらしめ、世
 界一の元氣な國民
 たらしむるホシの
 薬業報國共鳴者へ
 の感謝として



六月六日より八月八日まで
 ホシチヤコール錠 三十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上
 ホシチヤヤコル錠 五十錠 御買上

星製薬株式会社
 ホシチヤエーシストア

石炭一〇〇パーセント
 サイヴキス

時節柄 値下げ！
 ダンゼン

一等塊 正味五〇斤入一俵 金貳拾八錢
 特塊同 金參拾五錢

品質が優良
 目方か正確
 此の点は當店を絶対に御信用願ひます
 ◎市内は一俵より配達致します

電話三七番

豆コークス炭 阿部石炭商店

貴方の御家庭に

お手不足は御座いませんか

本會を御利用下さい

直に家政婦を派出します

親切 料金は極めて低廉で
 町寧 妊産婦の御家庭 留守居番
 御病人の付添 お留守居番
 炊事や雑用 年寄やお子さんの付添

派出多忙に付會員至急募集

平町紺屋町二(電話二二三番)

上原家政婦會

會主 産婆 上原通子

名も紅小路

新装道路の喜び

お齒黒ドブは渠暗となり傍らの道路も舗装されて全く面目一新した新田町の南郷通り梅湯から大床理髪店に至る細横町の工事完成を喜ぶ竣功式は昨廿四日午後三時から工事関係者、區代表等が参列して舉行新装道路は場所柄によさしく紅小路と命名された

理髪試験合格者

けふ平署で證書授與式

平署は過般郡山市で行はれた理髪試験の管内合格者四十四名に對し本廿五日午前十時より同署會議室に於て證書授與式を行つたが合格氏名左の如くである

- (平) 加藤ヨシ 若松アキ
- ノ 高田フク 作山ノリ
- 根本トヨ 長島カネ 藤田キク 水谷福三 引地政勇 鈴木隆次 加藤正一 木村正一 大曲直意 石崎茂 岡田トラ 澤田實 高田良雄 根本善一郎 加藤清 石田勝 田仲キミエ 戸田忠 鈴木次郎 安齋マサ子 矢部藤江 (湯本) 柳井ミチヨ 栗田孝治 武田信子 (内郷) 矢部フヂエ 柳田勇 竹田吉次 鈴木信太郎 (好間) 齊藤ヨシ 長瀬キ(小名濱) 西山寅一 近野ヨシイ 庄司宏 平子俊男 江上リツ 遠藤英善 橋本登(玉川) 渡邊キク (赤井) 松島賢 木義幸 (江名) 志賀留藏

配属將校 教練視察

けふは會議

縣下中等學校配属將校會議は廿五日午後一時より磐城中學校で開催第二師團より谷藤司令部付少將 縣より

市制財政調査の道草物語(九)

川崎 文治

京都御所は、拜觀が仲々面倒になつた。元は一廓を横切る道路があり、交通も自由であつたが、今では通行禁止。委任官以上の資格者でなくては内部の拜觀が許可ならぬ。それを、引田京都府庶務課長の肝煎り、一行は難なく拜觀の光榮を擔ひ、勢ひ込んで自動車、蛤御門の前に横付けしたが、服装がフロックか

り伊藤知事、諸橋學務部長高井教育課長臨席の下に協議や打合せを進めたが更に明廿六日は午前七時より平第一校で平町青訓生徒の教練午後警中生の教練を夫々視察すると

守屋次官

けふ歓迎宴

既報郡下の漁港視察の爲め來平する守屋農林政務次官は住吉屋本店に一泊するが案内役の伊藤本縣知事も本日正午來平、向く住吉屋本店に投宿するので平町では青沼町長外井上、萩原、野崎三縣議が發起となり本廿五日午後六時から谷口樓で官民合同の歓迎會を開く、會費二圓五十錢

防護委員出席

少年

防護法による防護委員に任命された平町各小学校長並紋付の羽織袴と規定されてある爲め、一行の様は旅裝姿では勿許不可、守衛との押問答も結局徒勞に終つて、廻れ右ッ!

びに日本基督教會牧師中村清治氏は明後廿七日より三日間仙臺市宮城縣會議事堂で開催の少年防護事業講習會へ出席する

四倉活況

漁獲一割増

四倉町の大敷網は夏職に入つてから既に三萬三千五百圓の漁獲を擧げエビス角網では七千圓餘の收穫を見昨年より一割の増収に活氣を見せて居る

佐藤代議士

渡歐の途

既報第三十一回列國會議同盟會議に出席する本郡選出佐藤庄太郎代議士は星島二郎、岡田伊太郎、永田色吉の各代議士及び西澤衆議委員書記と共に本廿五日午後三時東京驛發の特急富士で出發、シペリヤの美味が、末だに忘れられぬ。

經由で渡歐の途に就いた

木村訓導講習

二小學校木村訓導は廿五日第四區大浦小學校で開催の遊技講習會の講師に招かる

學校事務打合

各小學校事務打合會は今廿五日午後一時から平第二小學校で開かれ授業時短縮、夏期練習帳、平の教育その他について打合せた

組合功勞感謝

江筋組合は組合職員を十二年繼續在任し今退職した左記四氏に對し七月一日午前十時から事務所樓上で感謝状と火鉢一對の記念品を贈ると

- 四倉長谷川勇太郎 神谷西山喜代太 草野芳賀元 治 平窪矢吹與助

蕪市況 (廿五日)

四倉市場
 (白蕪) 二〇四貫 最高三
 (白蕪) 二〇四貫 最低三〇圓
 四圓七〇錢 最低三〇圓
 馴三三圓八〇錢

平町 人事
 出 生
 義賢 回 死 亡

△仲間町 當時横濱市鶴見區生麥町箱崎彌平(六九)さん

看護婦急派 求めに應じます

平看護婦會 電話三〇七番

て刻み付けたのは、何れ修學旅行團の惡戯か、萬更憎い氣もしないが、さりとて、斯かる保存物の風致を害すは、母校の名譽ともならず、今後は大いに注意を望む。

東京短期(前場)

品名	寄付	大引	高値	安値
新東	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新西	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新南	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新北	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新中	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新東	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新西	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新南	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新北	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇
新中	三三〇	三三〇	三三〇	三三〇

品名	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
一節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
二節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
三節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
四節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
五節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
六節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
七節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
八節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
九節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四
十節	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	二六四

店主が店員を連れて行

正シイ食堂

正シイ喫茶

正シイ酒場

平・田町

レストサロン

電三五二番

警察犬

近く平署に 泥的は大脅惶

齋藤警部補が購入

平署司法主任齋藤警部補は、目下各警察署で犯人捜査に採用して非常な好成績を擧げて居るセバト種警察犬の研究に没頭し此程大枚二百圓の自費を奮發してセバト種一頭を注文したがやがて平署に到着する此の警察犬の活躍は泥的に取つては正に大脅惶に價すべきである。

花祭り

盛大に 來月六日開催

平第二小學校恒例の花祭りは來月六日同校講堂で盛大に催されるが例年通り市内就床患者に兒童の書方、綴り方作品及び花束等を贈つて慰問すると。

天ふら火事

食止め功勞

兩足に大火傷

平署が表彰する

湯本町宇天王崎四九路鐵業紺野倉治さんの妻タミ(三)さんは去る廿日午後七時頃隣家の雜貨商橋本義政さん方で天ふら鍋が轉覆發火し一間四方に燃移つた際南京袋を持出して消火に努め兩足に二ヶ月を要する大火傷を負ひながら甲斐々々しく消止めたので平署では防火功勞者として表彰する事になつたがタミさんの働さで危ふく火災を免れた橋本方で早速タミさんに見舞金百

減刑判決

上小川村の 横領事件

上小川村大字山川字横川農田八兼治(四)が昭和四年から六年迄部落世話係として保管中の分配金數百圓をマ化した業務上横領並に詐欺背任横領被告事件の控訴審は昨廿四日宮城控訴院で審理の結果詐欺背任の點は證據不充分で無罪従つて事務上横領に依り原審十ヶ月の懲役が三ヶ月に減刑の判決を受けたが更に是れと附帶して上小川村が田久を相手取つて提起した三百五十圓の損害賠償請求の控訴も一審で田久の敗訴だつたものが今度は却下されその賠償を免れることになつたと。

白痴娘が

平町で女中奉公

山形市銅町己之松長女藤野シゲ(九)は性來の白痴で去月上旬悪周旋屋の口車に乗下働に賣飛され各地を轉々最近平町附近で女中奉公をして居ると叔父の富樫富太さんから平署に本日捜査方を願ひ出た。

居寝り運轉手

乗客が大怪俄して

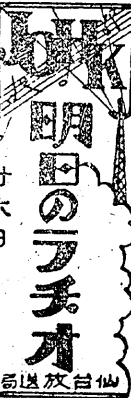
双葉郡富岡村大字小濱字驛九八鈴木善吉氏方自動車運轉手橋本善身(三)は去る五月十二日午後一時半頃富岡浪江間の定期乗合バスを運轉熊町村大字夫澤字岩船地内國道に差しかけた際居眠りのため操縦を誤り右側一丈餘下方の水田に墜落し同乗の同村大字夫澤字下園子橋二八杉本サワ(三)に治

罰金七十圓

療五圓の重傷を負はせ外敷名にも負傷させ業務上過失傷害事件は今廿五日平區裁判所小林判事より略式罰金七十圓に處された。

内郷村議視察

村沼田村長以下村會議員十名の一行は縣内町村視察の爲め双葉郡浪江町を振り出しに出發した。



明日のラジオ

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
唱歌劇「どろろ泥沼」
O.A.K. 唱歌隊
後六、二五 青年の時間
「登山と地圖の讀み方」
就て「田中館秀三」
後七、三〇 講演「昆蟲を語る」
理學博士湯淺八郎
後八、〇〇 座談會「東北の鳥を語る」
鷲谷瀧雄

四時川で 投網嚴禁

川部村 地内の 鮫川支流四時川の鮫は鮫川と同じ魚体が平均五六寸に發育して居るので鮫川漁業組合では遙々東京方面より入込む大公望連優遇の意味で解禁當日は如何なる者にも投網を絶対に嚴禁すると。

仁義慘劇の 公判は明日

去る廿四日平支部の豫審終結した植田町山田屋別館の殴り込み事件の小吹事荒川又一郎(三)外三名に係る傷害並に傷害致死事件の公判はいよいよ明日廿六日午前九時から平支部で中島裁判長係り香西、小林兩判事陪席白水檢事立會、安齊、大峯額賀(水戸)三辯護士列席の下に開廷されることとなつたが地方には珍らしい血塗れ事件だけに傍聴人の殺倒を豫想される。

熊岡天堂氏 近日世界館へ

懸賞 熊岡天堂解説の映畫は何? 何月何日(本曜日に限る)より公開するか
投票方法
用紙: 官製ハガキ、制限ナシ
宛先: 世界館懸賞係
差出人: 住所氏名明記ノ事
切: 六月三十日午後九時半抽籤
於世界館
當籤發表: 七月一日世界館前
右の通り當選者多數の場合には嚴正なる抽籤の結果左の通り賞を呈す

- 一等賞 壹名 世界館特等券十枚
- 二等賞 貳名 壹等券五枚
- 三等賞 參名 普通券五枚
- 四等賞 四名 普通券五枚
- 五等賞 五名 普通券五枚
- 右合計 五十名 様

田東湖正氣歌「一菊地謙二郎」
前二、三〇 母の時間
「海濱や林間の夏期學校と兒童」醫學博士加用信憲
後三、〇〇 五ラデオレヴェ「夏の踊り」安東英男
松竹管絃樂團
後三、〇〇 家庭講座「豆腐料理の話」林春隆
後三、四〇 小學生の時間
唱歌「夏の曉」飯島民子
後三、一〇 教師の時間
「算術の指導に就て」安東壽郎
後六、〇〇 子供の時間
お話「水銀橋本爲次」

後六、二五 基礎英語講座
岡倉由三郎
後七、三〇 講演「北清事變中セーモア聯合陸戰隊の想ひ出」海軍少將宇佐川知義
後八、〇〇 俚諺 仙臺
「山形大津繪」山形縣東根町細野桃村
後八、二〇 長唄「連獅子」
松永鐵之佑
後八、四五 落語「忠臣藏四段目」三遊亭圓歌
後九、〇五 歌謡曲「一ス井」ト、デエニ、リ、外チエリ、ミヤノ、二、嗚呼日本海外 楠木繁夫 指揮古賀政男

一冊の代金で 五冊の雑誌が 自由に讀める

川崎 回文庫
電六三〇番
(申込次第規則書進呈)



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島 証史
(筆) 野口 武彦

第百五十八回

洋妾餘情 (三)

「は、はやく、お歸へんなさい」
おとわは、苦しい息の下からやつとこれだけ云つた
「いや、なか／＼歸りませぬ」
彼は、燃るやうな碧眼で
おとわをみつめながらぐいと
織手を握りしめた。
「パークスさんが、お歸ん
になりますわ」
「歸つてもよろしい。わた
し、パークスさんと決闘し
ても、あんたを、自分のも
のにします」
「決闘?」
おとわは、顔をあげた。
不思議な鮮血を感じた。
「わたしこそ、この男
を刺さねばならないのだ。
といふ、意志と感情が、
おとわの胸に、鮮血の花を
さき亂した。」

おとわは、思はず、帯の
うへに手をやつた。
ウエルズを刺さうとして
肌身につけてをる懐剣は鮮
血にちぬられようとして、
しきりにおとわの決意をう
ながして居るのだ……。
「はやく。」



さうだ、ウエルズの胸を
ぐさと突いて、自分も此場
で、外國武官の爲めにさ
れやう。敵を殺して自分も
死ぬるのだ。その覺悟さへ
あれば、さつと、この男を
殺すことが出来る。
「さうだ。早く……」
だが、帯の上を押へたお

とわの手は、じきに、その
胸をかくく押へてしまつた
眼前に、まぼろしとなつ
て浮び上つた助太刀屋大志
賀市之丞の面輪……。
「さうだ、この紅毛と
さし違へて死んでしまつた
ら、永久にあの人に會ふ事

は出来ない……。たつた一
目、ひと目でいゝから、あ
の人の顔が見たい!
つひにまた、おとわの非
常の決意がにぶりだした。
「あゝ、こんな事では
おとわの心のうちに、し
きりに大志賀を求めた。そ
して、更らに茂平次の名を
よんだ。
「ふたれとも……」
いや、二人のうちの、誰
か獨りでいゝ、この室に
てくれたら、立派に此の紅
毛をさして、仇討本懐をと
げるにいゝと思つた。
だが、大志賀は、求めが
たいこの場合、かけつけて

來れるのは茂平次だ。しか
もその茂平次は今のさつき
ホテル館の支配人にすゝめ
られて室を出て行つてしま
つた。
「おゝ、さうだ。
始めて、おとわは今、支
配人にすゝめられて、室を

去つた茂平次の身の危難を
豫知するのだつた。巡察の
一隊の眼をのがれる爲め、
身を隠したが、いと云つた
のは、支配人の彼をたばか
る一言であつて、たくみに
茂平次を誘ひ出し、巡察の
手に渡し、そのあとでウエ
ルズを招き入れ、パークス
の留守の間に自分を、ウエ
ルズの自由にさせやうとの

悪計だつたのだと知つた。
「さうだ、おそろしい
おとしあな!
おとしあなに、突落され
てしまつたのだとさると
おとわは、身内に不思議な
血の逆流するのを感じた。
このまゝ、大志賀を、茂平
次を、空しく待つて居るう
ちにウエルズの毒牙は自分
の肌を噛むだらう。」

夜 間

腸胃 病性

内 科 專 門 院 科 性 胃 村 松
胃腸病科 皮膚科 性病科 花柳病科

(平町南町一七〇番)

療

毎度御引立を戴いてゐる
藤寅では例年通り
冷たい美味しい飲物

アイスクリーム アツキアイス
ミルクセーキ リーダ水
ミツ豆 クリームソーダ
其他水水各種

相初めました是非夏の夕の御散歩
歸へりに御立寄り下さい

平一丁目

迅速 出前

不孫實

電話一四一番

自轉車は左記

有名車を御撰擇下さい

世界的ニ進出セル

- ◎宮田ノ自轉車
- 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
- ◎ゼブラノ自轉車
- 實用經濟車トシテ好評アル
- ◎マーツ號自轉車
- ◎マーツ號の好評をねたみ羊頭狗肉の策を用ひ偽物を販賣なし商標を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了解を得ん

宮田代理店 エビスヤ商店
ゼブラ代理店
マーツ代理店

電話六六四

齒科口腔外科

レントゲン科

院長 東京齒科 醫學士 原 精一
東京齒科 醫學士 柏倉 武男

平町土橋通り
電話三一番

原齒科醫院

株 債 券

株式賣買、忠實ナル御相談相手トシテ
御利用下さい

尙御希望ノ方ニハ當店獨特ノ「野線」上ヨリ見タル
新東觀測「ヲ御送シマス是非一度御覽ヲ願ヒマス

株式債券現物賣買

丸井株式店

平町田町 七十三
電話 四六番

外務員募集